

京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

1. 国際研究ミーティングの名称

森林・水資源の保全と活用—日本・韓国の比較的考察

2. 主宰責任者氏名

池田さなえ(人文科学研究所、「生と創造の探究」班所属)

3. 開催日時等およびプログラム(講演者名または報告者名を明記してください)

日時:2019年12月16日 14時~18時

場所:京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室1

演題:「水と暮らし—濟州島のふたつの事例から」

講演者①李 榮敦氏(濟州大学校教授)「濟州の水と魚、その利用」

講演者②朴 美貞氏(立命館大学 非常勤講師)「グローバル濟州と移住現況—ある若い夫婦の濟州 定着物語」

4. 概要(400字程度)

李榮敦氏は、濟州の独特の自然環境の中ではぐくまれた水資源、魚類の特徴を挙げ、その中で近年濟州溶岩海水産業化支援センターによって進められている画期的な飲用水開発や魚類の生殖周期を利用した養殖事業について、その実態を報告された。朴美貞氏は、経済特区となりグローバル化が進む濟州において、国内からの移住政策もとられる中、本土の都市部から濟州に移住した夫婦の事例検討を通して現代韓国の抱える問題を考えるものであった。討論では、まず李氏に対して、濟州の水環境の特異性や日本国内で行われている同様の養殖漁業との関係などに質問が集中した。朴氏に対しては、検討対象として指定された夫婦が濟州への移民を考える事例として適切なのか、その特殊性と一般化可能性について質問が集中した。本シンポジウムは、広く一般に宣伝・告知を行ったわけではなかったが、参加者や講演者の努力で口コミによって広められ、学外研究者のみならず、研究者以外の参加者も多く得られ、充実した議論が展開された。

5. 参加者(別紙「参加状況」も記載してください。)

学外:李榮敦(濟州大学校教授)、朴美貞(立命館大学非常勤講師)、真鍋多恵子(一般)、高貞姫(一般)、酒井浩一(一般)、立川雅子(一般)、平中俊子(一般)、橋本道範(琵琶湖博物館)

学内:シェル・エリクソン(文学研究科・研究員)、奈良寺湧太(農学研究科・院生)

所内:池田さなえ(助教)、岩城卓二(教授)、ティル・クナウト(准教授)、藤原辰史(准教授)、石井美保(准教授)、瀬戸口明久(准教授)

6. 助成金の使途等

講演者・朴美貞氏の謝金および李榮敦氏の旅費・謝金の一部(李榮敦氏 の不足分は「総長裁量経費・文芸理融合のための人的プラットフォーム形成」より補填)

7. その他(成果や今後の展開等、自由に記載してください)

本シンポジウムで配布された資料は、共同研究班「生と創造の探究」HPにて公開している
[\(http://www.zinbunleben.jp/\)](http://www.zinbunleben.jp/)。HP タイトルは当研究班の前身である「環世界の人文科学」名になっている。また、講演者の李氏・朴氏は本シンポジウムの講演内容を論文にまとめ、『人文学報』に投稿する予定である。

別紙

参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	外国人	40歳未満	35歳以下	大学院生	総計	外国人	40歳未満	35歳以下	大学院生
学内(法人内)	2	8 (2)	2 (0)	3 (1)	2 (1)	1 (0)	8 (2)	2 (0)	3 (1)	2 (1)	1 (0)
国立大学	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学	1	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関	1	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関	1	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	5	5 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	10	16 (7)	5 (2)	3 (1)	2 (1)	1 (0)	16 (7)	5 (2)	3 (1)	2 (1)	1 (0)

※()内には、女性数を記載

※受入機関、受入人数、延べ人数を区分に応じて記入してください。

※外国人、若手研究者(40歳未満)、若手研究者(35歳以下)、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延

べ人数に対しての内数を記入してください。

※受入人数、延べ人数については上段に総数を下段に()で女性の内数を記入してください。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入してください。

※受入人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出してください

国際研究ミーティングに参加者2人が3回参加した:受入人数2人、延べ人数6人

